



教師ガイド ストップ! 女子割礼!

導入1

- ワリス・ディリーの著書「砂漠の女ディリー」の一部を教師が読んだ後、質問をして自由に話を交わす。この過程で女子割礼に対する学生たちの背景知識を共有し、割礼の苦痛についての感想を語り合う。
- 鈍い刃でザクザクと肉が切られていく音が聞こえた。今になって考えてみると、私にそんなことが起きたことが信じられない。他人の話をしているような気分だ。その感覚を言葉で説明するのは不可能だ。誰かが太ももの肉や腕を切ったかのような感覚に似ている。切られていく部分が全身の部位のうちで最も敏感な部分ということを除いては。(中略)気がついた時はすべて終わったものと思ったが、最もおぞましい部分が残っていた。眼帯が取れると死の女性の前に積まれたアカシアの木のとげが見えた。とげで手術の部分に穴をいくつか空けた後、その穴を白くて丈夫な糸に結んで縫い合わせた。脚には感覚がなかった。脚の間の苦痛は死ぬほど激しかった。私は苦痛を通り越えて空中にふわっと浮び上がるような感覚を覚えた。宙に浮かび上がって下に広がる光景を見ていた。女性が私の体を縫う間、かわいそうな私の母は、私を両腕で抱いていた。その瞬間、私は心の安らぎを取り戻した。
- この話はどんな状況を描写したものだろうか?
- 自分がもし話の中の‘私’だったら、どんな気持ちだっただろうか?
- このような話に関連して知っていることはあるか?
- 女子割礼(FGM)について聞いたことがあるか?

砂漠の女ディリー



- この話はどんな状況を描写したものだろうか?
- 自分がもし話の中の‘私’だったら、どんな気持ちだっただろうか?
- このような話に関連して知っていることはあるか?
- 女子割礼(FGM)について聞いたことがあるか?

導入2

- アフリカの国々の女性たちの割礼経験比率を表した地図を見せた後、学生たちの考えと感想を共有する。これを通して女子割礼問題の深刻性を認識させる。
- 地図の中の国々が持つ共通点は何だろうか?
- 地図に書かれた数字は何を意味するだろうか?

女子割礼に関するある地図



- 地図の中の国々が持つ共通点は何だろうか?
- 地図に書かれた数字は何を意味するだろうか?
- 地図の中の国のうち、最も高い比率を占めた国家はどこだろうか? 聞いたことのある国だろうか?

- 地図の中の国のうち、最も高い比率を占めた国家はどこだろうか?聞いたことのある国だろうか?

1. 女子割礼とは何だろうか?

- **女性性器切除**：女子割礼とは医療的目的に関係なく、宗教または文化的慣習により女性生殖器の一部を切除して損傷を負わせるすべての行為を称する。世界保健機構(WHO)が定めた公式名称は「女性性器切除(Female genital mutilation)」で、イニシャルである「FGM」として通用される。
- **非衛生的で激しい痛みと出血を伴う多様な施術**：女性生殖器の陰核表皮だけを除去する施術/表皮と陰核、小陰唇、大陰唇などをすべて除去する施術/生殖器の全体あるいは一部を除去した後狭い隙間だけを残して縫い合わせる施術など、多様な方式から成る。女子割礼施術は激しい痛みと出血を伴う。
- 『割礼は健康、安保、身体的安定性に対する個人の権利を無視する行為であり、拷問に近い残忍で非人間的な行為である。生命権を侵害する行為でもある。』 -世界保健機構(WHO)



2. 女子割礼はどのように始まったのだろうか?

- **4000年間受け継がれてきた伝統**：女子割礼はアフリカ地域の民間で数千年間世代を継いで伝えられてきたものとされる。正確な起源は明らかでなく、いくつかの推測が提起されている。
- **起源に対する3つの推測**：
 - ① 疾病予防と円満な性生活、衛生のために施行が始まった。
 - ② 多産神に捧げる祭物を用意するために始まった。
 - ③ 部族あるいは国家の一員になったり、成人として生まれ変わるための通過儀礼として始まった。
- + **エジプト、ナイル川起源説**：エジプトはナイル川の岸辺で自然神に祭物を捧げる風習があったが、多産の神に女性の生殖器を切り取って捧げ、土に埋めたりナイル川に投げるなどした。よって女子割礼は収穫期やナイル川の洪水の際に行われ、女性たちは毎月ナイル川を訪れたという説がある。



3. 女子割礼はなぜ行われるのだろうか？

- **成人になるための通過儀礼**：一部社会では女性生殖器の陰核を女性の身体に残る男性の痕跡と見なすため、女子の割礼儀式を通じてこれを除去することにより完全な女性として生まれ変わるものと信じている。
- **婚前純潔のための装置**：一部社会では少女が女子割礼を受けると婚前純潔を守る確率がより高まり、結婚後も貞淑な女性として家庭に最善を尽くすものと信じている。このような観点から、割礼施術を受けなかった女性の場合は、信頼できない、貞淑でない女性という認識がある。
- **一夫多妻制の強化手段**：女子割礼は特に一夫多妻制が普遍的なアフリカやイスラム文化圏で主に行われる。一夫多妻制の下で一人の夫が数人の妻の面倒を十分に見るのが容易でないため、妻たちを管理する次元で女子割礼を施行するという分析である。



4. 女子割礼はどのように行われるのだろうか？

- **女子割礼経験談byエジプト女性新聞記者‘ラバス・アジェム’**
中学生だった13歳の時に受けた手術の苦痛は、今も忘れることができない。カイロ北西部メノピアにある祖父の家で夏休みを送ったある日、叔母から「結婚式に行くからシャワーを浴びなさい」と言われた。そして2歳下の妹とともに車に乗せられた。到着したところは民間診療所。何の説明もなく、手術台と机しかない小さな部屋に案内された。手術台に乗せられ、叔父や叔母など4人に手足を動かさないよう押さえ付けられた。30分ほど泣いて抵抗したもむなしく、妹といとこ2人など4人が手術を受けた。祖父が「おめでとう」と言ってキスをした。
- **施術者は主に村の産婆**：都市地域では病院で専門医が施術することもあるが、ほとんどは村の高齢の産婆が施術を担当する。
- **施術対象は4~15歳の少女たち**：少女たちは割礼が女性として生きていくための必須的通過儀礼だと幼少期から教育を受けるが、大抵はある日突然わけの分からないまま施術を受けることになる。
- **道具はカミソリ、ハサミ、割れたガラス片、鋭利な石など**：一般的に女子割礼は専門医療装備もなく消毒もされていない非衛生的環境で、麻酔もせず行われる。一部地域では動物の排泄水を利用して患部を消毒する民間療法を適用すること



もある。麻酔をせず施術するため少女の悲鳴が聞こえないよう、儀式はほぼ夜明け直前に挙行される。

- **施術後：**施術後少女は別に用意された空間で治療を受けたり休息を取る。だが、この過程で専門的な医療サービスが受けられないため、施術後に遺症や合併症により苦痛を味わう場合が多い。女子割礼が施行されるほとんどの国家ではそれ自体が神聖な権利かつ義務であると認識しており、割礼儀式のために大々的な村祭りを開いて割礼を受けた少女に華やかな服と贈り物を贈るなどする。

5. 女子割礼は世界的にどれだけ多く行われているだろうか？

- **2.5億人：**全世界的に約2.5億人の女性たちが割礼を経験した (UN 2024年資料)。
- **11秒に1人、毎日7850人：**まだ毎年2900万人が割礼にあっている (UN 2024年資料)。
- **アフリカや中東、アジアの30余ヶ国で施行：**世界保健機構によると、アフリカや中東、アジアの30余ヶ国で女子割礼が行われている。最近ではヨーロッパ、アメリカ、南アメリカなどに移住した女子割礼文化圏民族が彼らの伝統により割礼を施行する場合があるため、ヨーロッパやアメリカ大陸の国々まで女子割礼が流入した。国家別の比率はソマリア98%、ギニア97%、シエラレオネ90%、エジプト87%、エリトリア83%、エチオピア74%、ナイジェリア25%、イエメン19%、イラク8%の女性が割礼を受けたものと推定される (ユニセフ 2024年資料)。
- + **ソマリア女性の90%：**2024年のユニセフの調査結果によると、15~49歳の女性のうち割礼経験者が90%に上り、これより若い少女たちにも施術が頻繁に強行されていることが分かった。政府次元で女子割礼禁止法を通過させたが、ソマリアの保守団体や宗教団体の保護の下で絶えず不法な割礼施術が続いている。割礼施術を受けて出血過多で死亡する事故なども持続的に報告されている実情にある。
- **2050年には：**全世界女性人口の1/3が、女子割礼を実施している30ヶ国で誕生することになる。これは2億人以上の女性が割礼施行の危険にさらされることを意味する。特に女子割礼比率の高いソマリアの場合、2050年の女性人口が2024年に比べ2倍増加する予定であるため、被害女性の数字はさらに増加するとみられる。

SUNHAK PEACE PRIZE

5. 女子割礼は世界的にどれだけ多く行われているだろうか？

- ・ 全世界で2億人
- ・ 98秒に1人、毎日7850人
- ・ アフリカ、中東、アジアの30余ヶ国で施行
- ・ 2050年には、



6. 割礼後、女性の人生はどのように変わるのだろうか？

- **生涯続く身体的後遺症と合併症：**女子割礼施術には、激しい痛みと出血を伴う。多くの施術は麻酔や消毒過程が省かれたまま非衛生的に行われ、後に多くの合併症を誘発する。
 - ①出血過多による死亡
 - ②患部がひどくはれ上がり炎症を誘発
 - ③慢性貧血を誘発
 - ④排尿の際に30分以上時間を要する不便さ
 - ⑤月経時に血液が外部に十分に排出されず不衛生で生じる全身感染の危険
 - ⑥消毒不足による敗血症、破傷風発病の危険
 - ⑦施術後低下した免疫力による各種細菌、ウイルス感染の危険
 - ⑧性行為時の苦痛と不妊問題
 - ⑨出産時、妊婦と新生児の死亡の危険が増加
- **精神的後遺症：**麻酔をせず施術する 경우가大部分であるため、深刻な苦痛によるショックが発生することがある。施術が終了後はこのような苦痛が精神的トラウマとなって羞恥心、喪失感、心配、落胆といった情緒不安などの問題を生涯抱えて生きていくことになる。



7. 割礼から逃れて難民となる女性たち

- **割礼から逃れて逃亡する女性たち：**女子割礼がもつ深刻な苦痛と後遺症に対する恐怖から逃れるため、生活の基盤を捨てて逃亡する女性たちが増加している。女子割礼を施行する国家の出身でヨーロッパに難民申請をする女性および少女は28,000人で、そのうち73%(20,440人)が女子割礼のために本国を離れている(UNHCR 2024年資料)。主な出身国はエリトリア、ナイジェリア、ソマリア、ギニア、エチオピアなどで、これらの国では高い女子割礼の比率がみられる。
- **割礼は難民申請の理由となり得るだろうか？：**難民は「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れた人々」を意味する。女子割礼は生命を脅かす迫害であるため難民条件に該当し、これらの女性は保護を受けるべきである。しかし現在割礼から逃れようと故郷を離れた女性たちが難民の地位を取得するのは容易ではない。多くの難民制度関連者は「割礼は文化の一部であるため問題とならない」という見解を持っており、「10代の少女や若い女性たちは割礼を免れることができるほど十分に成熟している」と考えるためである。



8. 女子割礼撤廃のための努力：認識改善

- **割礼は美しい伝統なのか?**：数千年にわたって女子割礼が強行されてきたため、女性たち自らが割礼の不当性を正しく認識できない場合が多い。そのうえ多くの人々が女子割礼が少女の性アイデンティティを正す美しい伝統であり、これを通じて一社会の一員と認められると考えられている。
- **女性自らの認識を変える教育**：女性たちを対象に「女子割礼は守るべき美しい伝統ではなく、残忍かつ非人間的な暴力的行為である」という認識改善教育をしなければならない。女性たち自らの認識改善なくしては長年にわたる慣行を絶つのは難しい。
- **共同体の認識を変える教育**：割礼施行国の共同体は、割礼を受けない女性は邪悪で社会構成員に病をまき散らすものと考えている。このような共同体中で生きていく女性たちは、やむを得ず割礼を選択する他はない。割礼の弊害を地域社会に広く知らせ、誤った慣習を中断するよう教育しなければならない。



8. 女子割礼撤廃のための努力：人権団体

- **1990年代、女子割礼の暴力性が世界に公開**：女子割礼は1997年、世界的なファッションモデルであるワリス・ディリー(ソマリア出身の割礼経験者)がその残忍な暴力性を西欧社会に暴露するまで、単にアフリカの伝統とみなされていた。ワリス・ディリーは1997年から2003年まで国連の女子割礼撤廃特別広報大使として活動し、女子割礼を全世界の中で最も女性の人権を抑圧する代表的で象徴的な国際問題として取り上げた。
- **全世界的な割礼撤廃キャンペーン**：世界的メディアの取材と割礼経験当事者の証言を通じて、世界の多くの人々が女子割礼に対する関心と問題意識を持つようになった。このような流れの中で、ユニセフ、砂漠の女ディリー財団、トスタンといった国際人権団体は割礼根絶のために多様な活動を展開した。これらの人権団体は女子割礼が守られるべき伝統ではなく反人権の暴力であるという認識を広め、割礼の法的禁止を導くに至った。



8. 女子割礼撤廃のための努力：国際社会

- 2月6日は女子割礼撤廃の日：2003年、国連は2月6日を「世界女子割礼撤廃の日」に指定した。
- アフリカ連合、すべての形態の女子割礼を法的に禁止：2003年7月、アフリカ連合国家の政府代表らはモザンビークの首都マプトに集まり人権に関する「マプト議定書」を採択したが、その第5項ですべての形態の女子割礼を法的に禁じることを明示した。
- 国連の持続可能な開発目標5.3：「持続可能な開発目標」17項目のうちの5つ目の目標である「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」条項下の3つ目の細部目標は、「未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚、および女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃」しようというものである。持続可能な開発目標(SDGs)5.3は、女子割礼を2030年までに撤廃するという目標を持って多様な活動を行っている。
- だが、今もなお強行中：2000年代以降多くの国家が女子割礼を禁止する法案を制定し、共同体や指導者を中心とした割礼撤廃宣言も絶えず行われた。だが、その後もなお女子割礼は完全に撤廃されていない実情にあり、女子割礼による死亡事故のニュースが絶えず続いている。



9. 女子割礼撤廃のために戦った人々

- ワリス・ディリー紹介映像：
<https://www.youtube.com/watch?v=CUS68O-sePk>
- ワリス・ディリー：ソマリア出身のスーパーモデル、かつて女子割礼撤廃のための国連特別人権大使。女性の98%が女子割礼の苦痛を味わう故国ソマリアを離れてイギリスに定着して過ごしていたある日、偶然の機会を経てモデルとなる。スーパーモデルとして広告および映画に出演して名声を積む中、1997年に雑誌「マリークレーン」とのインタビューで、自身が幼少期に女子割礼を経験したことを告白。以後1997年から2003年まで国連の女子割礼撤廃特別広報大使として活動し、数千年もの間行われてきた女子割礼の暴力性を全世界に知らせ、この悪習を根絶するための国際法制定に率先して、割礼の危機に置かれた数億人の若い少女たちを救った。この功労から、2019年に第3回鮮鶴平和賞を受賞した。
- 『私が女子割礼撤廃運動を行って以来、ソマリアでは少女の98%が強制されていた女子割礼が8%に、アフリカ全体では



70%から7%に減少した。しかし問題は、未だにこの悪習が行われているところがあるということだ。』

9. 女子割礼撤廃のための努力：人権運動家

- **モリー・メルチング**：アメリカ出身の人権活動家。1974年から西アフリカ、セネガルで暮らしながら非政府機構の「TOSTAN」を組織し割礼撤廃に努めた。その結果、セネガルの多くの村共同体が女子割礼慣行の中断を宣言することになった。
- 『最初にこの仕事を始めた時、彼女は知識も財産もなかった。ただ学校に行くことができない人々に教育の機会を与えたいという切実な思いと、シャム・ヌジャイ村の住民300人がより良く暮らせるだろうという希望だけであった。当時は今のようなことが起きるとはまったく想像もできなかった。ほぼ3,500に上るセネガルの村が、女子割礼慣行の終息を宣言した。ザンビアの58村、ギニアビサウの43村、ギニアの332村、マリの7村、そしてソマリアの34村も宣言に参加した。』
- 女子割礼の危機に置かれた数百万のアフリカ少女を救済した人権運動家モリー・メルチングの旅程をつづった書籍、「夜がどれほど長くても」より

9. 女子割礼撤廃のために戦った人々



モリー・メルチング(1949-)
アフリカ女性の人権のために戦ったアメリカ出身の人権運動家。

西アフリカ、セネガルで非政府機構「トスタン」を組織して活動。FGMに対する認識を改善し撤廃のための啓発、キャンペーンを実施した。セネガルと周辺国の様々な村共同体をFGM中断宣言に参加させた。

10. 女子割礼撤廃のために私たちにできることは何だろうか？

- **私たち皆の関心が必要**：多様な民族と文化が活発に交流し共存する地球村社会において、女子割礼は世界共同の問題である。21世紀を生き行く私たちは、生命を脅かす残酷な女子割礼を撤廃するため、皆がともに努力すべきである。
- **割礼撤廃のために行動**：女子割礼の実態とその弊害について多くの人々と共有すること、国際機構や非政府機構を通じて割礼被害女性支援のために活動することなどが可能である。

10. 女子割礼撤廃のために私たちにできることは何だろうか？



- 私たち皆の関心が必要
- 割礼撤廃のために行動